

平成 19 年度用高等学校理科 高等学校 化学 改訂版 (化 018)

平成 20 年度用教科書では以下について訂正致します。ご迷惑をお掛け致しますこと、謹んでお詫び申し上げますと共に、ご指導に際しまして、ご配慮戴きますようお願い申し上げます。  
(株)新興出版社啓林館編集部

訂正箇所		原 文	訂 正文
頁	行		
14	4	硫化銅( )	硫酸銅( )
	23	塩化鉄( )	硫酸銅( )
83	表	(C-C(C <sub>2</sub> H <sub>6</sub> )の値) 329	330

改善のための訂正

訂正箇所		原 文	訂 正文
頁	行		
前見返し		(キャプション) (2005) ( <sub>104</sub> Rfの原子量) (261) ( <sub>105</sub> Dbの原子量) (262) (267) (268) ( <sub>106</sub> Sgの原子量) (263) ( <sub>107</sub> Bhの原子量) (264) (271) (272) ( <sub>108</sub> Hsの原子量) (269) ( <sub>109</sub> Mtの原子量) (268) (277) (276) ( <sub>110</sub> Dsの原子量) (269) ( <sub>111</sub> Rgの原子量) (272) (281) (280)	(2007年)
13	図7	(ヨウ素の結晶がより大きい写真に差し替え)	
52	12	{l}	{L}
62	5	l	L
62	12	27 : 24	9 : 8
86 88 292	17 表2 中段	受け取ってH <sub>2</sub> Oを生じるので塩基である。 (表中文字) 水酸化アルミニウム Al(OH) <sub>3</sub> 水酸化アルミニウム 88, 175	受け取るとH <sub>2</sub> Oを生じるので塩基として働く。 (削除) 水酸化アルミニウム 86, 175
104	10 22	反応し、 <u>硫黄を生じたものである。</u> <u>酸化をよく見ると、</u> (脚注追加)	反応して生じた場合が多い。 <sup>*1</sup> 酸化では、 <u>*1 他にp.154式②の反応なども起こっている。</u>
109	図5	(Na <sub>2</sub> S <sub>2</sub> O <sub>3</sub> と+2を削除)	
123 124	図14 12 表5	(図中文字) 正極 (-)Zn   ZnCl <sub>2</sub> aq, NH <sub>4</sub> Claq   MnO <sub>2</sub> , C(+) (表中文字, マンガン乾電池の正極) MnO <sub>2</sub> , C	正極集電体 (-)Zn   ZnCl <sub>2</sub> aq, NH <sub>4</sub> Claq   MnO <sub>2</sub> (+) MnO <sub>2</sub>
123	20	(-)Zn   KOHaq   MnO <sub>2</sub> , C(+)	(-)Zn   KOHaq   MnO <sub>2</sub> (+)
124 290 293	表5 右段 中段	(表中文字) <u>オキシライド乾電池</u> <u>オキシライド乾電池...124</u> (ニッケルカドミウム電池の次に追加)	<u>ニッケル系一次電池</u> (削除) <u>ニッケル系一次電池...124</u>
174	12	Na <sub>3</sub> [AlF <sub>6</sub> ] <sup>p175 *2</sup>	Na <sub>3</sub> AlF <sub>6</sub>
184	図24	(3つ直列されている直流電源の記号を1つに変更)	
185	23(脚注*1)	主成分は水酸化炭酸銅CuCO <sub>3</sub> ・3Cu(OH) <sub>2</sub> と考えられている。	種々の組成のものがあり、屋外に生じるものの主成分は水酸化硫酸銅CuSO <sub>4</sub> ・3Cu(OH) <sub>2</sub> といわれている。
194	2(脚注*1)	Ba <sup>2+</sup> はCa <sup>2+</sup> に,	Ba <sup>2+</sup> とMg <sup>2+</sup> はCa <sup>2+</sup> に,
228	図7	(色を改善した写真に差し替え)	
228	22	沈殿する。 <sup>*2</sup>	沈殿する。 (脚注 * 2削除)
	26-27	*2 <u>ギ酸(→p.233)と芳香族アルデヒド(ベンズアルデヒドなど→p.254)はフェーリング液の還元反応は示さない。</u>	
233	18	示す。 <sup>*1</sup>	示す。 <sup>*1</sup>
	25	含まれる <sup>*2</sup>	含まれる <sup>*1</sup>
	26	つくられ <sup>*2</sup>	つくられ <sup>*1</sup>
	27(脚注*1)	*1 <u>ギ酸は、銀鏡反応は示すが、フェーリング液の還元反応は示さない。</u>	(脚注 * 1削除)
	28(脚注*2)	*2	*1
230	23	湯浴で熱し	60 の水浴で熱し
	27	60 の湯に浸けて温める	60 の水浴で熱する
239	8-9	80 の湯浴で図のように	図のように80 の水浴で
248	19-20	60 の湯浴で5分間振り混ぜながら温めた後	60 の水浴で5分間振り混ぜながら熱した後
260	12-13	60 の温湯に浸けて熱する	60 の水浴で熱する
259	図20	(試験管3本中の液量を改善した写真に差し替え)	
261	5	-N <sup>+</sup> N]Cl <sup>-</sup>	-N N] <sup>+</sup> Cl <sup>-</sup>
裏表紙		(ISBNコードとバーコード変更による白マドヌキの形の変更)	